

令和 8 年 7 月～9 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 8 年 7 月～9 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 419 社 回答率 52.4%）

2 調査期間 令和 8 年 9 月 14 日（月）～9 月 24 日（木）

3 結果概要

今期（7 月～9 月期）は、前期（4 月～6 月期）と比較すると業況判断 DI[※]が改善、売上高 DI が 2 期連続でやや改善、採算 DI がやや改善、資金繰り DI、雇用人員 DI がやや悪化となっている。

建設業の指標はすべて改善傾向にある一方、小売業の各指標は悪化傾向が多く見られるように、業種間の差異が生じている。

来期（10 月～12 月期）の予測は、業況判断 DI が改善、売上高 DI、採算 DI、雇用人員 DI がやや改善、資金繰り DI が横ばいとなっている。

来期予測は多くが改善傾向にあるものの、中東情勢の不安定化による経営環境の不透明感が増していることから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

※DI とは「ディフュージョン・インデックス」の略称で、経済活動の状況を把握するために複数の指標をまとめて分析し、景気の方角性を示す統計指標のこと。本調査では、季節要因を除くため前年同期と比較の上分析しており、各 DI は「好転」と回答した企業の割合から「悪化」と回答した企業の割合を差し引いた値のこと。

○業況判断	今期の指標は前期より改善（ $\Delta 21.5 \Rightarrow \Delta 11.7$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 11.7 \Rightarrow \Delta 6.0$ ）
○売上高	今期の指標は 2 期連続でやや改善（ $\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 3.3$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 3.3 \Rightarrow \Delta 0.5$ ）
○採 算	今期の指標はやや改善（ $\Delta 6.4 \Rightarrow \Delta 3.8$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 3.8 \Rightarrow \Delta 1.0$ ）
○資金繰り	今期の指標はやや悪化（ $7.4 \Rightarrow 5.5$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $5.5 \Rightarrow 5.3$ ）
○雇用人員	今期の指標はやや悪化（ $0.7 \Rightarrow \Delta 1.0$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 1.0 \Rightarrow 1.2$ ）

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：産業振興局 産業戦略部 産業成長推進課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和8年7月～9月期 地域産業経営動向調査 〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 8 年 9 月 14 日（月）～令和 8 年 9 月 24 日（木）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	105 社	52.5%
製造業	200 社	107 社	53.5%
卸売業	100 社	54 社	54.0%
小売業	100 社	53 社	53.0%
サービス業	200 社	100 社	50.0%
全産業	800 社	419 社	52.4%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると業況判断DIが改善、売上高DIが2期連続でやや改善、採算DIがやや改善、資金繰りDI、雇用人員DIがやや悪化となっている。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断DIが2期連続で改善、売上高DIが3期連続でやや改善、採算DIが2期連続でやや改善、雇用人員DIがやや改善、資金繰りDIが横ばいとなっている。

今期の前年同期比をみると、建設業の指標はすべて改善傾向にある一方、小売業の各指標は悪化傾向が多く見られるように、業種間の差異が生じている。来期予測は多くが改善傾向にあるものの、中東情勢の不安定化による経営環境の不透明感が増していることから、引き続き市内企業の動向について注視していく必要がある。

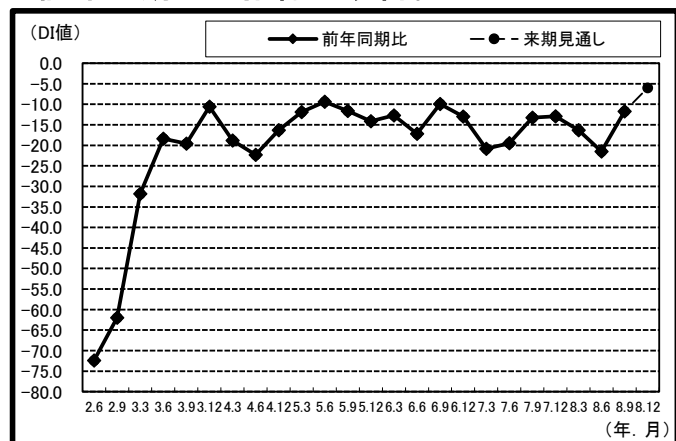
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 21.5 \Rightarrow \Delta 11.7$)

・来期見通しの指標は2期連続で改善と予測
($\Delta 11.7 \Rightarrow \Delta 6.0$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、小売業、サービス業は改善、卸売業はやや悪化。

・前年同期比の指標は改善。



2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は2期連続でやや改善
($\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 3.3$)

・来期見通しの指標は3期連続でやや改善と予測
($\Delta 3.3 \Rightarrow \Delta 0.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業は改善、サービス業、製造業はやや改善、小売業は2期連続でやや悪化、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は2期連続でやや改善。



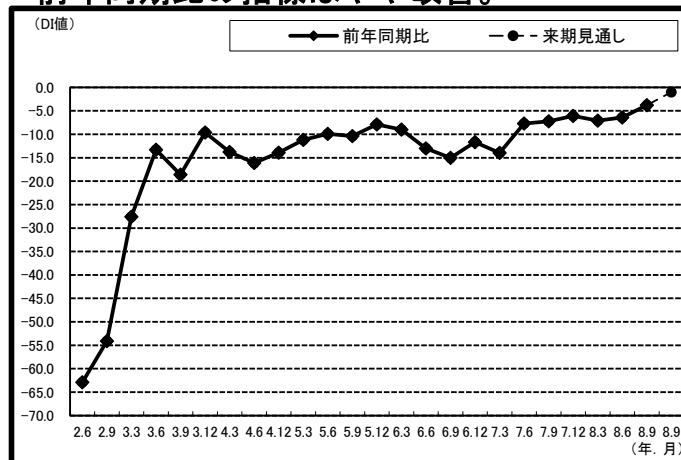
3. 採算の動向

・前年同期比の指標はやや改善
($\Delta 6.4 \Rightarrow \Delta 3.8$)

・来期見通しの指標は2期連続でやや改善と予測
($\Delta 3.8 \Rightarrow \Delta 1.0$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業は2期連続で改善、建設業は改善、卸売業はやや改善、製造業は横ばい、小売業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



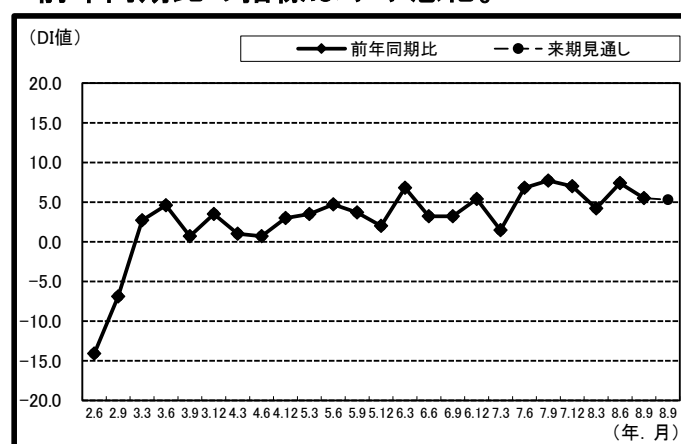
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標はやや悪化
($7.4 \Rightarrow 5.5$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測
($5.5 \Rightarrow 5.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業は2期連続で改善、建設業は改善、製造業、小売業はやや悪化、サービス業は悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標はやや悪化
($0.7 \Rightarrow \Delta 1.0$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($\Delta 1.0 \Rightarrow 1.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は改善、建設業、卸売業はやや改善、製造業、サービス業は悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。

